

新今昔物語

第3話

市の指定文化財③ 永祿銘地藏菩薩石仏

御領の集落の中に西福寺があります。この西福寺の南隣に小さな祠があり、この中に石造の地藏菩薩立像が安置されています。

高さ80センチ、幅60センチの花こう岩に、線刻の二重円光を背にした半肉彫りの地藏菩薩が彫刻されています。

像の全体的なバランスは頭部が大きく、衣紋も線刻とされており、やや稚拙なものとなっていますが、その体型からなんとなく親近感にあふれ、お地藏さんの優しさが伝わってきます。

像の左右の銘文によると、永祿元年（1558）8月頼尊越後助という人物が、生前に自身の死後往生（逆修）のために、大乗妙典千部を供養したとされています。そしてこれを記念してこの地藏菩薩石仏を造立したというこ



御領 1丁目所在

とです。大乗妙典とは、一切経（大蔵経）のことです。

頼尊越後助がどのような人物であつたのかについては、この石仏以外には全く記録に見られないため、今となってはその実像は不明ですが、戦国時代のま

つただ中であつて、来生での安楽を願つた思いが伝わってきます。

この地藏菩薩石仏にはお線香が絶えず、今でも地域の人びとから信仰されています。

（市史編集委員 岡村喜史）

新今昔物語

第4話

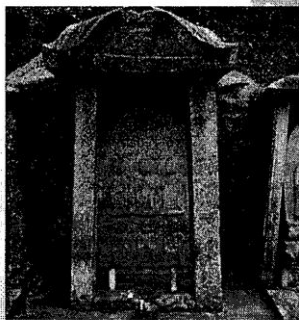
市の指定文化財④ 一石六地藏石仏

阪奈道路の竜間バス停から少し坂を登って東に入る道は、古堤街道の延長にあたり、奈良に抜ける旧道です。阪奈道路からこの道を200メートルほど入ったところの分岐点に、石柱で石の屋根を支えた中に六地藏の石仏が安置されています。

高さ48センチ、幅86センチの舟形光背に、身丈約45センチの半肉彫り地藏菩薩立像が、上段に3体、下段に3体と並んでいます。地藏菩薩の姿は、錫杖を持つものや玉珠を持つもの、または合掌姿のものなどさまざまです。

像の左右に彫られた銘によると、永祿10年（1567）2月23日に、六齋念仏の供養の講衆55人によって造立されたことが分かります。

六齋念仏とは、毎月8・14・15・23・29・30日の六齋日に精進して念仏を称えるもので、併せて念仏踊りが行われることもあつたようです。室町時代には奈良県や大阪府で特に盛んに行われ



龍間所在

（市史編集委員 岡村喜史）

なお、このような形のもを「板碑」と呼ぶ場合もあります。笑みを浮かべたような顔立ち

は、地藏菩薩の慈悲を表し、道を行き交う者を見守っているようにも思えます。

（市史編集委員 岡村喜史）